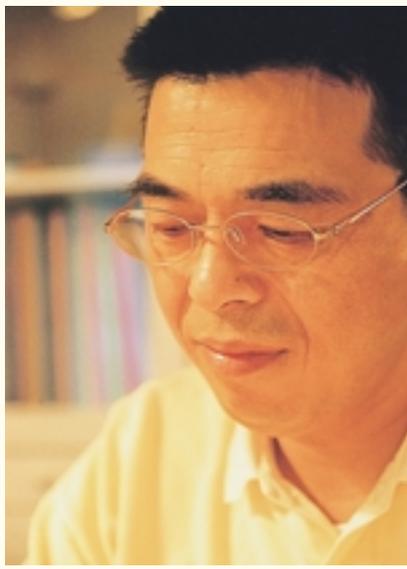


南 勝重みなみかつしげさん 五〇歳。興部町出身。小売り、メーカー、卸問屋で二十年以上勤務した後、平成十一年に独立し、オーダーメイド家具を取り扱う「澗工房」を設立。顧客のライフスタイルに合わせた洗練されたデザインの家具と気さくな人柄で、根強いファンを持つ。澗工房 白石区東札幌二条四丁目 ☎八二六六七九七 ホームページアドレス <http://www.mio-kobo.com/>



◀倉庫を改造したショールーム。南さんの熱意と知恵の結晶が所狭しと並ぶ



◀「イラストや図面は顧客への手紙」と南さんは言う。南さんのアイデアを雄弁に物語る



南さんの家具には、独特の存在感がある。「家具は生活の道具」。南さんの信念が宿る



▶「グッドデザインほっかいどう」に選ばれたテーブル。食卓にもなる引出しは、お盆としても使える優れもの。南さんのセンスが光る



「どんな家具を作るべきか。その答えは、使う人の中にこそある」。区内でオーダーメイド家具の製造・販売を手掛ける澗工房の主、南勝重さんの持論だ。主にデザインを担当する南さんが、かんやのこぎりを持つことはほとんどない。「私の仕事は、お客様の欲しがっているものを引き出し、形にしておくこと。だから、デザインもするし、住まいや家具について企画・提案もする。さしずめ家具の総合プロデューサーというところでしょうか」。大学卒業後、小売店、メーカー、卸問屋と三十年近く家具業界に身を置いてたどり着いた、独特の家具作りのスタイルだ。南さんの家具作りは、顧客とコミュニケーションをとることから始まる。「色やデザイン、素材はもちろん、この家具は、誰が、どこで、どのように使うのか。雑談みたいに話すことが多いですね」。

「どんな家具を作るべきか。その答えは、使う人の中にこそある」。区内でオーダーメイド家具の製造・販売を手掛ける澗工房の主、南勝重さんの持論だ。主にデザインを担当する南さんが、かんやのこぎりを持つことはほとんどない。「私の仕事は、お客様の欲しがっているものを引き出し、形にしておくこと。だから、デザインもするし、住まいや家具について企画・提案もする。さしずめ家具の総合プロデューサーというところでしょうか」。大学卒業後、小売店、メーカー、卸問屋と三十年近く家具業界に身を置いてたどり着いた、独特の家具作りのスタイルだ。南さんの家具作りは、顧客とコミュニケーションをとることから始まる。「色やデザイン、素材はもちろん、この家具は、誰が、どこで、どのように使うのか。雑談みたいに話すことが多いですね」。

## オーダーメイド家具

澗みお工房

南みなみ 勝かつ重しげさん

「そんな家具を作るべきか。その答えは、使う人の中にこそある」。区内でオーダーメイド家具の製造・販売を手掛ける澗工房の主、南勝重さんの持論だ。主にデザインを担当する南さんが、かんやのこぎりを持つことはほとんどない。「私の仕事は、お客様の欲しがっているものを引き出し、形にしておくこと。だから、デザインもするし、住まいや家具について企画・提案もする。さしずめ家具の総合プロデューサーというところでしょうか」。大学卒業後、小売店、メーカー、卸問屋と三十年近く家具業界に身を置いてたどり着いた、独特の家具作りのスタイルだ。南さんの家具作りは、顧客とコミュニケーションをとることから始まる。「色やデザイン、素材はもちろん、この家具は、誰が、どこで、どのように使うのか。雑談みたいに話すことが多いですね」。

そして南さんのこだわりが混然一体となり、確かな存在感を放つ。「かなり無茶な注文もしますから職人には嫌がられますが」と笑うが、その作品は三年連続で「グッドデザインほっかいどう」にも選ばれるほど高い評価を得ている。わざわざ東京から南さんの工房を訪ねてくる同業者もいるのだという。

二十代の若者から政財界の著名人まで。いずれも南さんの家具にほれ込んだ熱心なファンが、自分だけの家具を求めて南さんの元に足を運ぶ。単なる「生活の道具」以上の魅力が、南さんの家具にはあるからだろうか。南さんは言う。「見た目や使いやすさはもちろんだけど、それだけじゃない。別の何か」を持つ家具。強いと言えば、使う人とその家族の歴史みたいなものが映し出されていくような家具を作り続けていきたい」と。店名の「澗」は、水路のこと。行き交う水のごとく人の交流のある場所であることを願って付けたものだという。だが、それは流れ続ける水のように、倦まず弛まず良い家具を作り続けようという南さんの気概そのものなのではないかと思つた。